

出題分析			
試験時間	60分	配点	60点
		大問数	3題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉</p> <p>本文の分量は昨年と比べて減少しているが、設問数は変化なし。経済のあり方について歴史的な変遷を分析した文章で、経済に関する基礎知識があれば読みやすかっただろう。設問もおおむね取り組みやすい。</p> <p>〈古文〉</p> <p>江戸時代の読本からの出題で、本文の分量は昨年とほぼ同じ。設問数も同じで、解答数は2増。記述1題を含む点も昨年と同じ。知名度の低い作品で、本文も長いものの、文章自体は平易で、内容は把握しにくくはなかったであろう。文法・語彙も基本的なものが問われた。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>清代に書かれた料理本からの出題。本文量は昨年と比べて大幅に減少。設問数も1つ減り、大問全体として一昨年と同程度の分量に戻った。大意を把握しやすい文章ではあったが、設問は一部慎重な判断を要するものもあった。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 小幡正敏 『社会学の視角』	経済のあり方について、部族社会、前近代社会、近代社会の時代区分に分けて分析し、近代社会の市場経済の問題点を示す文章。設問は正解の選択肢を選ぶのに苦労しないものが多く、普段の学習度合いが試された。漢字の書き取り1問 (枝問3)、脱文挿入1問、理由説明2問、抜き出し1問、内容説明2問、空欄補充3問の構成。	やや易
二	古文 (近世小説) 石川雅望 『飛弾匠物語』	愛し合う男女の密会を、何とかして取り持とうと腐心する好人物の話。マイナーな作品だが、解釈・内容理解に特別な知識が要求されるものではなかった。脱文挿入1問、文法1問、語釈1問、空欄補充1問 (枝問5)、傍線部解釈1問、内容合致1問の構成。	やや易

設問別講評			
三	漢文（論説） 袁枚『随園食单』	客に料理を提供する際の注意事項として、高級だが味が無い食材を重んじる「耳餐」に陥らないよう戒めた文章。空欄補充1問、内容説明1問、書き下し1問、内容合致1問の構成。	標準

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>本文のテーマは文化・文明、社会、科学論など様々である。設問は傍線部内容説明や空欄補充などで本文の展開を問うオーソドックスなタイプが中心である。普段から文章内で提示された内容をきちんと整理できるように、論理の展開や文の切れ目、具体例などを意識して読み解く練習を積んでおこう。</p> <p>〈古文〉</p> <p>出典は有名作品からマイナーなものまで幅広く、ジャンルも物語・説話や日記・歌論など偏りなく選ばれる傾向がある。出題形式は、解釈・文法・空欄補充・内容合致といった定番が主流となっている。対策としては、単語や文法などの基礎事項を確実に定着させ、その上で過去問や類題に数多く触れ、実戦力を養っておきたい。本年度は出題されなかったが、和歌に関する出題のウェイトが高い年度もあるので、対応できるよう和歌の鑑賞力・修辞技巧の知識を身につけておくことも望ましい。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>標準レベルの語句・句法や語順のルールを押さえれば、正解を導ける設問も多い。ただし本文のジャンルは様々で、分量や設問の難易度には幅があるので、実際の文章の中で広く漢文特有の表現に触れ、内容をはやく正確に把握する力を高めておきたい。他学部のものも含め、多くの過去問を解いておこう。</p>